

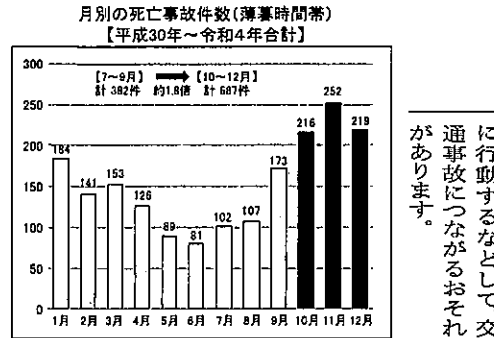
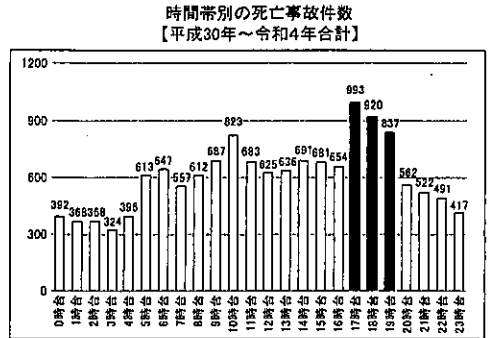
山形県 自家用自動車

10月・12月にかけて死亡事故が多発!

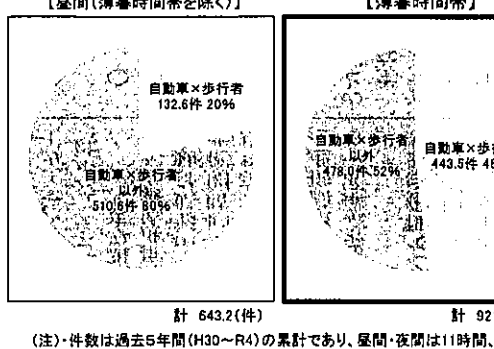
薄暮時間帯に於ける交通事故防止
 薄暮時間帯は、例年の前後1時間は、死亡事故が多発しています。この時間帯は周囲の視界が徐々に悪くなり、自動車や自転車、歩行者などの発見がお互いに遅れたり、相手の距離や速度がわかりにくくなるためです。

警察庁は、平成30年から令和4年の5年間に於ける交通事故の発生状況から、10月から12月にかけての交通事故の発生割合が約3.3倍多いことを示しています。

警察庁は、平成30年から令和4年の5年間に於ける交通事故の発生状況から、10月から12月にかけての交通事故の発生割合が約3.3倍多いことを示しています。



当事者別の時間当たり死亡事故件数【平成30年～令和4年合計】



(注)・件数は過去5年間(H30～R4)の累計であり、昼間・夜間は11時間、薄暮時間帯は2時間として算出

そのため、薄暗くなる前から前照灯を意図的に使用する「前照灯の早め点灯」を行い、自分の車の存在を周囲に知らせるようしましょう。

歩行者や自転車利用者は、薄暮時間帯や夜間には、薄暮時間帯や夜間に

交通事故に遭わないようにするため、反射材やライトを活用することが効果的です。

歩行者や自転車利用者から見て、車が接近してきていることが分かっても、運転者からは、歩行者や自転車がよく見えないことがあります。そのため、明るい目立つ色の衣服を着用したり、靴、衣服、カバン、杖などに反射材やライトを付け、運転者から見えやすいようにしましょう。

定価1部・20円
 会員の購読料は会費に含まれております
 発行所
 山形市大字漆山字行段1422
 一般社団法人
 山形県自家用自動車協会
 電話023(686)3951
<https://www.y-jikayo.or.jp>
 印刷/協興林印刷所

ハイビームを上手に活用して衝突回避!

警察庁はハイビームによる衝突回避の可能性を調査・分析しその結果を公表しています。

平成28年の統計資料から、夜間、自動車が直進中(カーブを含み右左折時等は含まない)に歩行者に衝突したハイビームを使用していない死亡事故のうち、一般道で非市街地の要因が運転者の発見の遅れ、衝突を回避できない、高速度以外などの一定の条件下で発生した2

25件のうちハイビームにより衝突回避できた可能性の高い事故が126件(56%)あったとしています。ハイビームを使用していたと仮定した場合における、自動車から歩行者発見地点までの距離や当時の自動車速度などを総合的に勘案した結果としています。

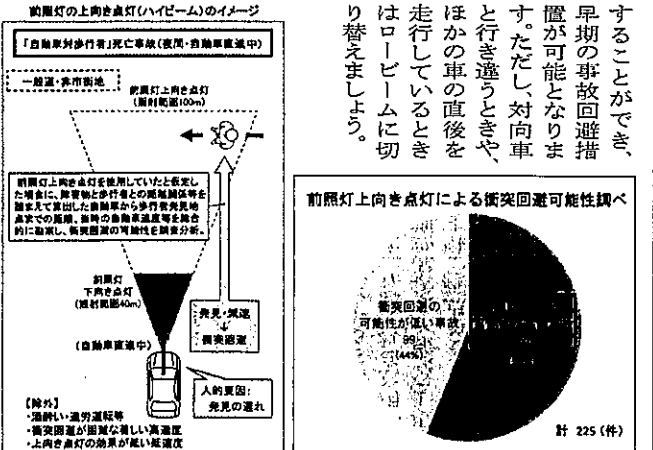
夜間、街灯が少ない暗い道路を走行する時はハイビームにすることで歩行者などを遠くから発見

令和5年度 高齢者の交通事故防止推進強化旬間

山形県交通安全対策協議会

- ◆ 実施期間:11月1日(水)～11月10日(金)
- ◆ 運動の重点:夕暮れ時の交通事故防止
- ◆ 交通事故防止のための具体的行動

- 【運転者】
- 早めのヘッドライト点灯とこまめな切り替えによるハイビームの積極的活用
 - 横断歩道では、歩行者を最優先に安全に横断させるなど、交通ルールの遵守
 - 悪質・危険な飲酒運転の撲滅
- 【歩行者】
- 道路横断時は、手や旗でしっかり意思表示し、横断開始時と横断中の2度確認を徹底
 - 夕暮れ時からの外出は、目立つ明るい色の衣服と夜光反射材の着用
- 【自転車利用者】
- 夕暮れ時からの早めライト点灯及び夜光反射材の活用とヘルメットの着用
 - 飲酒運転の禁止、一時停止場所では必ず停止するなど、交通ルールの遵守



地域全体で高齢者を見守り、高齢者の交通事故防止を推進しましょう

「マイカー点検研修会」を開催

長井地区交通安全協会 (小松要 会長) は、9月24日、マツキョドライビングスクール長井校で、同協会女性部、高齢者部合同の「マイカー点検研修会」を開催し、同協会の会員37名が参加しました。

同協会の渡部副会長、マツキョドライビングスクールの長井校の住吉管理者の挨拶の後、座学研修と実車研修が行われました。座学研修では、交通講

話として、長井警察署の渡邊交通課長から、交通事故があったときの措置等についての説明があり、山形県自動車整備振興会の迎田指導員からは道路運送車両法に基づき使用者に義務付けられている日常点検整備や定期点検整備の位置づけとその概要について説明がありました。

実車研修は、実車点検の班と実車安全運転講習

の班に分かれて行われました。参加者は日常点検の必要性について理解するとともに、異常を発見した場合、ディーラーなどに連絡することなどを確認していただきました。

実車点検は、山形県自動車整備振興会長井西豊賜支部の担当者から、実車を使用し、ブレーキ液やエンジンオイルの点検、各灯火類の点検、タイヤの空気圧と摩耗の点検要領



長井署交通課長による交通講話



実車点検研修会の状況

などについて説明を受けました。参加者は日常点検の必要性について理解するとともに、異常を発見した場合、ディーラーなどに連絡することなどを確認していただきました。

実車点検は、山形県自動車整備振興会長井西豊賜支部の担当者から、実車を使用し、ブレーキ液やエンジンオイルの点検、各灯火類の点検、タイヤの空気圧と摩耗の点検要領

二輪自動車の後面衝突警告表示灯等の国連基準を導入

国土交通省

後続車に衝突の危険を知らせる機能として、これまで四輪自動車に導入されていた「後面衝突警告表示灯」について、国連自動車基準調和世界フォーラム(WP.29)での議論を経て新たに二輪自動車等においても備付けを可能とする国連基準の改正が成立しました。これを受け、当該基準を国内の保安基準に導入するた

国土交通省

め法令等の整備を進めるとしてあります。

「後面衝突警告表示灯」とは、自動車の後方にある交通と衝突するおそれがある際に灯火装置を点滅させることにより、衝突するおそれがあることを、後方の他の交通に対して知らしめる装置

◇後面衝突警告表示灯

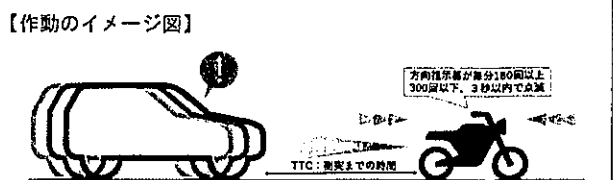
の主な要件

- ・当該車両の後方にある交通に当該車両と衝突するおそれがあることを、方向指示器の点滅(毎分180回以上300回以下)で知らしめることができる。
- ・作動時間は、3秒以下

・市街地等での不要作動を防ぐため、衝突までの予想時間等一定の条件下においてのみ作動

◇公布・施行

公布：令和5年9月22日
施行：令和5年9月24日



「危険予知トレーニング」動画

「日常ありがちな危険な場面を疑似体験」

JAF

本自動車連盟は、さまざまな交通場面から危険を予測する実写版危険予知トレーニングの動画をホームページなどで公開しています。交差点編、二駐車場編等様々な状況動画が用意されており、「次に何が起きるかを考える」「潜んでいた危険を見る」などのトレーニングに役立てて欲しいとしています。

このうち、バイク編では、片側二車線道路の左車線をバイクで走行中、前の車が左側の駐車場に入ろうと減速したため右側から追い越そうとしたとき、前の車の死角にいた駐車

場から出てきた車と危うく衝突しそうになるといふものです。この動画では、前の車が死角となり前方の状況が見えにくく、バイクは狭い隙間を無理に追い越せず、前の車が曲がるまで待つことや、駐車場から出る車の立場では、左折してくる車のほかに、向かってくるバイクや車がいなか慎重に確認してから道路に出ることなどが大切としています。

危険予知トレーニングは、交通安全教育において事故防止に効果のある手法とされ、道路交通に潜む危険を事前に予測し、適切に対応することにより交通

運転中の危険予知の重要性

自動車の運転は認知・判断・操作のサイクルで成り立っています。この中で「認知(見る)」の欠けによる事故が全体の7割というデータがあります。では、周りをよく見れば事故をしないのか?人間の目には限界があります。また、死角からの突発的な危険に対処することは困難です。

そこで、「認知(見る)」と並んで「予測」すること、(……かもしれない)で事故を未然に防ごうとするのが、危険予知の考え方です。さまざまな交通の場面を見て、この場面では…これが危険と予測し、連想することによって、危険に対する準備ができます。

https://jaf.or.jp/common/safety-drive/online-training/risk-prediction

マイカー点検フェスティバル 2023開催のお知らせ

8月の県内新車新規登録・届出数

☆8月総合計16・9%増(12ヶ月連続増加)

東北運輸局

国土交通省が推進する「自動車点検整備推進運動」の一環として、山形県主催の「マイカー点検フェスティバル2023」が10月14日(土)から15日(日)の2日間、山形市平久保の国際交流プラザ(山形ビッグウイング)で開催されます。

国土交通省が推進する「自動車点検整備推進運動」の一環として、山形県主催の「マイカー点検フェスティバル2023」が10月14日(土)から15日(日)の2日間、山形市平久保の国際交流プラザ(山形ビッグウイング)で開催されます。

県自動車道正管理推進協議会

「マイカー点検フェスティバル2023」が10月14日(土)から15日(日)の2日間、山形市平久保の国際交流プラザ(山形ビッグウイング)で開催されます。

山形県の8月における新車新規登録・届出数は、総合計3,577台で前年同月比16・9%増と12ヶ月連続の増加となりました。

○登録自動車は合計で28・7%の増となり、乗用車全体では27・9%増で8ヶ月連続の増加となりました。うち普通車が29・3%増、小型車は26・1%の増となっています。貨物車全体では40・5%の増で2ヶ月ぶりの増加となり、その他のバス、特種等は11・8%増と9ヶ月連続の増加となりました。

○軽自動車は3・7%増

転講習は、マツキョドライビングスクール長井校のコースを使用して実際に車を運転し、同スクールの担当者から安全運転へのアドバイスを受けました。

後続車に衝突の危険を知らせる機能として、これまで四輪自動車に導入されていた「後面衝突警告表示灯」について、国連自動車基準調和世界フォーラム(WP.29)での議論を経て新たに二輪自動車等においても備付けを可能とする国連基準の改正が成立しました。これを受け、当該基準を国内の保安基準に導入するた

別表 8月新車新規登録・届出数

| 登録自動車 | 乗用 | 5年8月 | | | 増減 | 率 |
|-------|----|-------|-------|-----|------|---|
| | | 普通 | 小型 | 計 | | |
| 乗用 | 普通 | 1,002 | 775 | 227 | 29.3 | |
| | 小型 | 783 | 621 | 162 | 26.1 | |
| | 計 | 1,785 | 1,396 | 389 | 27.9 | |
| | 貨物 | 236 | 168 | 68 | 40.5 | |
| その他 | 計 | 57 | 51 | 6 | 11.8 | |
| | 計 | 2,078 | 1,615 | 463 | 28.7 | |
| 軽自動車 | | 1,457 | 1,405 | 52 | 3.7 | |
| 小型二輪車 | | 42 | 41 | 1 | 2.4 | |
| 総合計 | | 3,577 | 3,061 | 516 | 16.9 | |

注1) 乗用車・普通は3ナンバー、乗用・小型は5ナンバー、貨物車は1又は4ナンバー、その他はバス、特種用途車等である。
2) 軽自動車については、軽自動車検査協会調べの速報値